

## 会議概要録

### 開催概要

- 名 称：第3回 東区自治協議会 第1部会
- 日 時：平成22年6月11日（金） 午前10時00分～午前12時00分
- 場 所：東区役所分館 会議室
- 出席者：委員  
岩橋委員、新保委員、鈴木委員、田中委員、  
山田委員、海津委員、橋本委員、橋本委員  
：事務局  
地域課企画係職員、建築課長補佐

### 審議内容

#### (1)「花でつなぐ区づくり事業」のおける区の花を決めるアンケートの集計結果について

- 事務局から5月に行なわれた区の花を決めるアンケートの集計結果が報告され、その結果を踏まえた今後の対応案が提示されました。今年度行なわれたアンケートは総数で50票であり、19年度に行なわれたアンケートの総数とくらべて10分の1程度という結果となりました。アンケート結果では宿根バーベナが17票で最も多かったもののこの数では区民の考えを反映しているとは考えにくいとため、ポチュラカ・マリーゴールドを加えた上位3種のなかから各コミュニティ協議会に選んでもらうという方法を考えているという報告がありました。
- 各コミュニティ協議会が花を選ぶとなるといつごろまでに希望を報告することになる予定か。
  - （事務局）この案を進める場合、今月の自治協議会で報告してからということになるので、7月に入ってから各コミュニティ協議会の意見を聞区ことになると思う。そのため実際に配布できるのは早くても7月の下旬になるのではないかと思います。
  - 昨年と比べ配布が一ヶ月程度遅くなるということになると考えて良いのか。
  - マリーゴールドなどは秋遅くまで咲いているので問題はないと思う。
  - このことについて報告する今月の自治協議会は区内視察も兼ねているため出席率はやや下がると考えられるが大丈夫なのだろうか。

- 一年ごとにかれる一年草より多年草のほうが良いという意見もあるようであるがそのことについてはどう考えているのか。

→（事務局）多年草である宿根バーベナも冬場は寒さ対策のためプランターごと車庫に入れてもらう必要があり、2年目以降は増えすぎた茎の管理も必要になってくるなどという課題もある。そのため、単純に一年草のほうが大変とはいえないようです。

- 上位三種から選ぶということは区の花として一本にしぼるということはしないということなのか。実質的に区の花というものがなくなるということになるとうけとれるのだが、そのような考えでよいのであろうか。

→（事務局）あまりに票数が少なすぎこの数で区の花を絞るとするのは難しいと判断しました。

→最初にこの事業をはじめたときは同じ花を植えることによって区の一体感を高めるという意見はあったがその花を県花のような区のシンボリックな花にしようという意見はなかったと思う。

→東区の花という表現から区のイメージにつながるようなものを考えていた。

→（事務局）最初にこの事業を考えたときには区のシンボル花というものではなかったのだが、投票段階ぐらいになるとこちらの表現も悪かったのですが「区のシンボル花」という表現になり、区民には区のシンボリックな花を植えるんだなという認識が広まってしまう。当初事務局が考えていたものとはちょっと違う方向に進んでしまっているのが現状です。

→やはり区民は県の花や市の花といったイメージと同様なものを持ってしまっている。

- この事業は2、3年を一区切りとするという計画だったが、50人しか関心を持たなかったこの事業をこれからやっていけるか。

→あまりに関心が薄いようだとこの事業をやっていく意味がないのではという意見も出てくる。

→ただ、区民にはこの花を区の花と思っている人と「今年は花が配られないね」という認識の人もいる。また「そんなのもあったよね」という程度の認識の人もいる。

→うちのコミュニティ協議会ではもう（まだこのアンケートの話が出ていない）新年度計画の時点で今年もポーチウチカであると言ってしまっている。アンケートの話が出た後で花が変わる可能性があるということは伝えたが、特に大きな混乱はなかった。住民は花が配られればなんでも良いやという考えも多いようである。

→うちのコミュニティ協議会ではなかなかプランターを置けるスペースがない関係で学校周辺のみになっている。

→スペースがない中、「区から来たから」と無理にお願いしてボランティアで植えてもらっている現状で、予算を割いて行なう意義はあるのだろうか。

- 自治協議会で花を一つに決定するのか、各コミュニティ協議会に選んでもらうかの2つの方法から決めるということによいか。今年度の事業を廃止するという選択肢も検討すべきか。

→(事務局)少なくとも今年度は行なう予定です。

→やはりここはコミュニティ協議会に選んでもらって区のほうには7月中に配布してもらうという形が一番良いのではないかな。

- 1つのコミュニティ協議会が複数の花を希望することは可能か

→(事務局)可能ですが、一本化していただいたほうが手間が少なくスムーズに配布できると思います。

→各コミュニティ協議会が1種類ずつ選ぶという方法のほうが混乱がなくよいのではないかな。

#### まとめ

上位三種の花(宿根バーベナ・ポーチュラカ・マリーゴールド)のなかから各コミュニティ協議会に選んでもらうという方法でよいと思う。ただ区の花ではなくなるのではないかなという疑問が出されることは予想されるので十分に説明できるようにして頂きたい。また、投票に行かなくても花の配布そのものには期待している人もいると思うが、今回の結果を踏まえ来年度以降この事業は継続するのかは十分に検討して頂きたい。

#### (2)「東区自治協議会の更なる発展に向けて」のアンケート結果に対する改善提案・意見のとりまとめについて

- 先月に引き続き、東区の自治協議会委員の全員を対象に実施されたアンケートにおいて出された課題・問題点に対し第1部会から改善案を提言するため、個々の課題について改善案や意見を出し合いました。

- 自治協議会で検討したことがどこまで取り上げてもらえるか疑問。

→自治協議会の任務の範囲については実施し、評価が出来る。

→疑問という意味がわからない。部会等で発案した場合、その案が出来そうにないなら出来ないということになるし、可能であるのなら議論するという形になると思う。

- 現場で議論するうえで、現場の実情の理解が不足している場合がある。部会でもっと現場視察を行なってもよい。

→視察後にその議論となると負担は大きくなるが、案件によっては実施したほうが良い。

● 時には自治協議会でもワークショップ形式などを取り入れると違った視点から議論できるのではないか。

→特定のテーマがある場合は行なうのもよいと思う。

→部会も一種のワークショップといえるのではないだろうか。

→北区が市民とのフォーラムを開催したが多くの意見が出て取りまとめが大変だとのことである。

→第3部会は議題により市民を参加させていたこともあった。そのような方法も良いのではないか。

● よほど準備と学習をして会議に臨まないと発言しても聞き流されてしまう気がする。

→ただ少し発言しただけなのか強く議論を求めたうえで聞き流されたのかわからないが、聞き流されるということはないように思う。

→議題に関連することを発言した場合聞き流されるということはないように思う。

→議案を提案する場合は資料を事前に用意し配布してもらうなどをすればよい。

● 部会で問題提起しても、調査・分析手段がないため議論が深まらない。

→必要に応じて外部の専門家や専門企業を活用することは出来ないのか。

→（事務局）第3部会で交通関連の内容を議論するとき新潟交通の人を呼んだことがあるほか、商業関連の議題のとき商工業会議所の関係者を呼んでいます。そのような形では可能です。

● 地域性、個別性の強い検討テーマはその特性を活かす方向でまとめてほしい。

→地域性がコミュニティ協議会レベルをさすのなら、どうしても議論が進まず自治協議会で議論してほしいという要望があるのなら別であるが、基本的には関連コミュニティ協議会で話し合うのが筋ではないだろうか。

→自治協議会がコミュニティ協議会の活動について指導する権限はないので、口を挟むようなことはできない。

● 部会に資料を持って事業提案したが、提案に対する返事や助言もないまま実現に至らなかった。このような進め方に疑問を感じる。

→少なくとも第一部会でこのようなことがあった記憶がない。

→本当に議論もなかったというより、議論を押し通そうとするあまり周りの意見が耳を傾けることが出来ないような状態だったのではないだろうか。

→部会ではその提案の賛否はともかく議論は十分に行なう必要がある。

● 部会への全員参加が必要なのか疑問。

→部会は任意であり、各委員の参加は自由である。

→自由参加ではなるが任期も限られているのであるし積極的な参加を求めたい。

→部会は強制的に割り振られたような記憶がある。

→まずまちづくり部会が出来たが全員が参加はできないので分野別に 3 つの部会が出来、委員はどれかに所属するようになったという流れだったように思う。

→（事務局）部会の参加は自由なのでもし委員の中に部会への所属や参加は拒否する人がいた場合、参加するようにお願いすることは可能であるが、強制することはできない。

● 部会での検討結果をもっと効果的に発信できないか。

→前回議論したが広報活動には費用がかかりそれが問題となっている。

→第 1 部会は（防災マニュアルなど）半年に 1 回程度成果を報告しているが、他の部会も議論した成果を公表するような形をとればよいのではないだろうか。

● 部会は任意参加の組織ではなく正式な組織にすべきではないだろうか。

→現在東区において部会は自治協議会運営において重要な役割に担っており、任意参加の組織ではなく、公認の組織にしても良いのではと思う。

→東区の部会は他の区と比較しても非常に成熟しており、議論も活発で事務局の協力体制もしっかりしている。

→任意な参加では委員に参加する意欲の低下を招く上、部会における発言も重みも持たなくなってしまう。

→部会を自治協議会の下部組織として公認するよう第 1 部会から自治協議会に働きかけるべきである。

● 部会での議論は内容が濃く、開催回数も増加しているので費用弁償等の対応を考えられないか。

→この問題に関しては委員は完全なボランティアであるべきだという意見もある。

→部会を自治協議会の下部組織として公認するという問題とも関連してくる。

→有償にするにしても交通費程度にするのかなどという問題がる。

→このアンケートとは別に部会で議論して本会議に報告する必要がある議題である。

→（事務局）東区として方針が決まっても他の区と足並みをそろえる必要もあり簡単には実現できないだろうと思う。

● 他の区と意見交換を積極的に行なってもよいのではないか。

→会長会議などで活発に活動している自治協議会について意見交換会を開けるように働きかけられないだろうか。

- 他の区でも自治協議会の運営について一度見直そうという動きがあるようなのでそのような委員と意見交換会を開きたい。
- コミュニティ協議会単位では他の区と定期的に意見交換会を行なっているところもある。
- このような意見交換会は活発にかつ正式に行なうべきである。
- 特定の議題があるのなら一緒にそのテーマをワークショップ形式で議論するのが望ましい。
- 阿賀野川に関連する議題で北区の委員と検討会を開くというように共通の課題がある場合共同で検討会を開くことは可能である。
- とりあえずは希望する他の区の委員にここの部会を実際に傍聴という形で見学してもらうというのはどうだろうか。

- 所属していないほかの部会へも行ってもらった必要があるのではないか。

- 部会報告では自分の部会は以前に聞いているので内容がわかるが他の部会の内容は十分には理解できない。要点だけでもペーパーにしてもらいたい。
- 関心がある場合は事前に連絡さえすれば他の部会にも参加できるのでそれを活用する。

- 部会での検討結果を無理に一つに絞り込まず、部会から本議会に対して複数の意見（検討結果）をあげても良いのではないか。

- 本会議に複数の意見をあげると混乱の元となるので、意見は一つに絞ったほうがよいのではないかと思う。
- 部会の議題の検討結果は一本化するよう努力するのが良い。

- 部会で出した結論について、同じ部会の委員から異なる意見が出されることはおかしい。

- 部会での結論は一本化するべきではあるが少数意見も尊重され、十分に議論されるべきである。

- 部会で発言にたいして、後日部外者から注意を受けたこと。当日出席した区役所側の発言にも納得いかなかった。

- 状況が良く把握できない。
- （事務局）傍聴者から話を聞いた人がその委員に後日意見をしてきたということのようです。
- 特殊な事情があるようなので意見を出しにくい。

- 最近第1部会でまとめられた「避難所運営訓練マニュアル」の内容は大変参考になった。

- これを活用してもらえればと思う。
- はやく区として出してほしい。

○ 今後の部会の進めかたについて

来月以降も引き続き、今回に引続き東区自治協議会委員へのアンケート結果を基に 1 項目ずつ議論し、第 1 部会としての意見をまとめていくことにしました。

○ 次回の開催について

- ・ 日時：平成 22 年 7 月 9 日（金） 午前 10 時～
- ・ 場所：東区役所分館 会議室